

## 第7節 グローバル関係融合研究センター



写真2-18-7-1

### 第1項 創設の背景と目的

グローバル関係融合研究センターは、2017年4月、千葉大学における初めての人文社会科学系の全学研究センターとして設立された。これは、文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究」に、「グローバル秩序の溶解と新しい危機を越えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立」（2016～2020年度）が採択されたことを契機とし、「グローバル関係学」の構築のための研究ハブ拠点として設置されたものである。センターは、本学の文系研究のピークとして、格差の拡大や難民問題、排外主義や多文化社会の問題など、現代のグローバル社会が直面するさまざまな危機をいかに読み解くかを探り、既存の学問の枠を超えた新しいグローバルな危機に対処する応用研究分野を生み出すことを目指している。

#### (1) 研究体制

同センターは、基本的に兼任研究員から構成され、設立時点で20人の研究員のう

ち8割が法政経学部、3人が国際教養学部、1人が園芸学部と、学部横断的かつ分離横断的研究ネットワークを全学的に構築した。また2017～2022年の間、延べ8人のポスドクを含む若手研究者が特任研究員としてセンターでの研究活動に関与したが、うち3名が他大学でポストを得ることに成功した。

研究員の研究成果は、国内外の学術ジャーナルや学術書として出版された他、センター・ワーキングペーパーおよび同研究エッセイとしてセンターが運営するホームページにオンラインペーパーとして発表された。

## (2) 研究資源の獲得

センターでの研究は、着実に研究員による研究資金の獲得に活かされている。センター研究員によって獲得された主要な外部研究資金は、以下のとおり。

表2-18-7-1

期間（年度）	研究課題	研究事業	研究代表者
2016-2018	宗教の政治化と政治の宗教化：現代中東の宗派対立における社会的要因と国際政治の影響	科研基盤A	酒井啓子
2016-2020	グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立	新学術領域研究（研究領域提案型、以下同じ）	酒井啓子
2016-2020	関係性を中心とした融合型人文社会科学のための国際学術ネットワークの確立と活性化	新学術領域研究	酒井啓子
2016-2020	規範とアイデンティティ：社会的紐帯とナショナリズムの間	新学術領域研究	酒井啓子
2016-2020	文明と広域ネットワーク：生態圏から思想、経済、運動のグローバル化まで	新学術領域研究	五十嵐誠一
2016-2020	政治経済的地域統合	新学術領域研究	石戸光
2017-2020	グローバル・ポピュリズムの比較政治分析：ヨーロッパ・アメリカ・日本	科研基盤B	水島治郎
2017-2020	人身売買/取引をめぐる市民活動の変遷-ネットワーク再構築に向けて	科研基盤C	佐々木綾子
2017-2019	非典型時間帯就労に着目したワーク・ライフ・バランスの国際比較研究	科研基盤B	大石亜希子
2019-2020	戦間期から冷戦初期に至るアジア・太平洋地域の広域ネットワーク	新学術領域研究（公募研究）	高光佳絵
2019-2021	グローバル化するケア労働と交差性	科研基盤C	小川玲子
2019-2022	日本と南太平洋を結ぶ南アジア系ディアスポラの社会学的研究	科研基盤C	福田友子
2020-2022	人身取引被害者支援の再考察：国際社会福祉学から考える安全な移動と生活	科研基盤C	佐々木綾子

期間（年度）	研究課題	研究事業	研究代表者
2020-2022	ポジティブ政治心理学の理論と実証——政治システムと心理的ウェルビーイングの関係	科研基盤C	小林正弥
2020-2023	東南アジアの越境的マイクロ地域群と空間地域政治学	科研基盤C	五十嵐誠一
2020-2024	非典型時間帯就労が労働者と子どものアウトカムに及ぼす影響に関する研究	科研基盤B	大石亜希子
2020-2022	データ駆動社会における情報連携と行政内外の規律に関する法制度設計	国際共同研究強化（A）	横田明美
2021-2025	「右」と「左」のポピュリズム：グローバル比較分析によるポピュリズム研究の新展開	科研基盤A	水島治郎
2021-2023	空間・暴力・共振性から見た中東の路上抗議運動とネ이션再考：アジア、米との比較	科研基盤A	酒井啓子
2021-2023	中東を軸とした非欧米社会の路上抗議運動研究ネットワーク構築：アジアの結節と比較	研究拠点形成事業B. アジア・アフリカ	酒井啓子
2022-2024	タイとラオスの地方行政単位による越境協力—模倣品、人身売買、感染症に注目して	国際共同研究強化（B）	五十嵐誠一
2022-2026	ジェンダー視点を取り入れた子どもの貧困研究	学術変革領域研究（A）	大石亜希子
2022-2026	小地域推定の新たな手法開発と官庁統計への応用	科研基盤C	川久保友超

## 第2項 研究活動

センターの研究活動は、研究員による研究発表の場を設けて行われる内部研究会の他、国内外から著名な研究者、ジャーナリスト、国際援助に関わる実務家などを招聘し、ワークショップや国際シンポジウム、講演会などを実施してきた。

2017～2022年度に実施された主要なシンポジウム、ワークショップは以下の通り。

表2-18-7-2

年	月日	内容	開催場所	主要なセンター研究者
2017	6/1	グローバル関係融合研究センターキックオフ・シンポジウム「グローバル世界と日本の現在と未来を考える」（基調講演：渡辺雅隆朝日新聞社代表取締役社長）	けやき会館	酒井啓子、大石亜希子、水島治郎、石戸光
	7/12	グローバル・コモンズ研究会「グローバルな問題としての宇宙デブリ：地球低軌道における実験的観点から」	センター	五十嵐誠一

第2部第18章第7節

年	月日	内容	開催場所	主要なセンター研究者
2017	7/28	セミナー「日中韓の統合と日本のビジネス環境」	センター	石戸光
	9/29	シンポジウム「政治経済的地域統合～アジア太平洋、ヨーロッパ、中東の動向から～」	センター	石戸光
	11/22-23	国際シンポジウム・公開講座「コミュニティの幸福と公正」	センター	石戸光、小林正弥、水島治郎
2018	1/5-6	国際会議「The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation?」(シンガポール国立大学との共催)	シンガポール国立大学 中東研究所	酒井啓子、石戸光、石田憲、小川玲子、福田友子、佐々木綾子
	2/11	国際シンポジウム「『メコン・コモンズ』から『メコン共同体』へ」	マルチメディア会議室	五十嵐誠一、石戸光、石田憲
	11/22	国際ワークショップ「イラクは、今～イラク学者の見た戦争、IS、政治と社会～」	マルチメディア会議室	酒井啓子
	12/21-22	国際会議「Relational Studies on Global Conflicts」(セルビア社会科学研究所との共催)	ベオグラード	酒井啓子、石戸光、石田憲
2019	2/6	国際シンポジウム「新たな政治経済地図 エネルギー資源、移民、政治経済的地域統合」	宇都宮大学	石戸光、酒井啓子
	2/10	特別ワークショップ「イラン革命から40年 何が変わり、何が実現したか」	東京グリーンパレスホテル	酒井啓子
	3/16	ワークショップ「アジアの農村の持続性 — 都市と地方の共存共栄は可能か」	柏の葉キャンパス	高垣美智子、酒井啓子
	9/24-28	第11回日本・イラク学術合同会議「日本・イラク間における80年間の交流史を総括する：地域研究を通じた学術交流」	バグダード大学	
	12/2-3	国際会議「International Conference on Resources and Human Mobility」(マヒドン大学との共催)	マヒドン大学 インターナショナルカレッジ	酒井啓子、石戸光、五十嵐誠一、高垣美智子、石田憲、小川玲子
2020	2020.6-2021.1	オンライン連続セミナー(1～7回)「新型コロナウイルス感染症と中東」	オンライン	酒井啓子、石戸光
	2020.7-2022.12	移民難民スタディーズ研究会(1～22回)	オンライン	小川玲子、佐々木綾子、福田友子、清水馨、横尾陽道、高光佳絵、石田憲、齊藤愛、酒井啓子
	8/7	特別ウェブ・セミナー「湾岸危機から30年：日本と中東のかかわり方はどうあるべきか」	オンライン	酒井啓子
	9/29	国際セミナー「The 2019 Iraqi Protests, One Year On: facts, aims, and prospects」	オンライン	酒井啓子
	11/21	ワークショップ「戦間期から冷戦初期に至る広域ネットワークと国際政治」	オンライン	高光佳絵、酒井啓子、石田憲

年	月日	内容	開催場所	主要なセンター研究者
2020	12/4	国際ワークショップ「Why do we need Relational Studies in understanding Global Crises?」(オーストラリア国立大との共催)	オンライン	酒井啓子、高光佳絵
2021	3/22-25	第12回イラク・日本国際学術集会「日本とアラブ世界～石油から文化まで：イラクの事例」	オンライン	酒井啓子
	2021.8-2022.3	移民難民ネットワークちば 勉強会(1～3回)	オンライン	小川玲子、佐々木綾子、福田友子
	10/2	アフガニスタン元留学生「教え子を救え!」プロジェクト・シンポジウム「私たちはいかにアフガニスタン人留学生を教えてきたか」	オンライン	酒井啓子、小川玲子
2022	2/21	グローバル関係学最終報告会／グローバル関係学コンソーシアム発足ワークショップ	オンライン	酒井啓子、石戸光、五十嵐誠一、水島治郎、石田憲、高垣美智子
	7/21-23	日韓合同パネル「Islam and Gender in Japan and Asia」(国際会議 Remapping the Feminist Global: A Multi-vocal, Multi-located Conversation)	ハイブリッド・梨花女子大学校(ソウル)	福田友子、小川玲子、酒井啓子
2023	2/7	国際ワークショップ：「中東・アジアにおける研究ネットワークの確立：第1回研究拠点代表会合」	マルチメディア会議室	酒井啓子

### (1) 新学術領域研究 (2017～2020年)

2020年度までのセンターにおける主たる研究活動は、新学術領域研究事業「グローバル関係学」の各計画研究に即して進められた。そこでは、海外の共同研究機関と共催で海外での国際会議を実施、国際的研究ネットワークの構築、拡大に力を注いだ。さらに毎年若手研究者報告会を開催、グローバル関係学を追及する学内外の若手研究者の育成に努めた。5年間の研究成果は、2020年度に岩波書店より『グローバル関係学』全7巻シリーズとして出版され、2022年には地域研究コンソーシアム「研究企画賞」を受賞した。

### (2) 移民難民スタディーズ (2020年～)

センターでは、設立当初よりグローバルな危機のひとつとしての移民・難民問題を研究テーマに取り上げてきたが、2020年より千葉大学グローバルプロミネント研究基幹リーダーシップ研究育成プロジェクトとして「日本の多文化共生社会構築へ向けた移民・難民研究(多文化共生)」が採択され、センター研究員の小川、佐々木、福田、

清水、横尾らを核に、共同研究を推進した。特に千葉県内における外国にルーツを持つ人々の共生環境について、とりわけ教育、雇用分野に光を当てて調査を行った。2021年には認定特定非営利活動法人日本都市計画家協会の助成を受け、NPO法人多文化フリースクールと共同で「千葉の移民コミュニティの教育と福祉に関する調査」をまとめ、同プロジェクトのホームページで公開した。

### 第3項 国際学術ネットワークの構築

#### (1) 大学間学術交流協定の締結

センターでは、海外の研究機関との共同研究体制の構築に力点を置き、大学研究交流協定の締結を積極的に推進した。2017年にイラクのバグダード大学と協定を結んだことを皮切りに、2018年には同ムスタンシリーヤ大学、さらにはバンコクに拠点を置くメコン機構と協定締結に至った。これらの協定機関とは毎年、密接な研究交流を行っている。

#### (2) 海外からの研究者招聘

センターでは海外からの研究者受け入れを積極的に進めており、これまで香港、イラク、ドイツ、イランなどからの外国人研究者がセンターを拠点に研究活動を行った。2023年度には、日本学術振興会の外国人招へい事業2件が採択され、アフガニスタン、カタールからの研究者を受け入れる。